研究員に期待されるミッション

社内統一システム構築のための業務の見える化及び改善と構想策定

社員へのヒアリングや業務フローの作成を通して業務や情報の流れを見える化した上で、業務を再構築して改善につなげた。この際、報告書作成や請求業務等にAIなどのデジタル技術を活用して効率アップを図った。

▼

取り組み内容

Step 1 現状理解
問題や課題、痛み（時間・損失）情報や手続きの流れ、ツールの使い方などを、約2カ月をかけてヒアリングする。

Step 2 業務内容の分解
情報の入力から加工、出力に至るまでの業務フローを作成、整理した後、改善策立案に向け情報の流れを分解した。

Step 3 改善策の立案・実施①
作業の重複削減に向け、社内情報共有ポータルサイトを構築し。請求業務のフローを再構築するなどして効率化した。

Step 4 改善策の立案・実施②
入出庫記録入力に基づく請求明細の自動計算システムのほか、事故報告書作成を支援するAIを導入・開発するなどした。

共創型企業・人材展開プログラム 事例

CASE:

運送会社における業務効率化のための基盤づくり

受入企業

大西運輸 株式会社
代表取締役社長 丹羽 雅治 さん

1982年設立の運送会社。複数メーカーの商品を配送先ごとに一括で配送する「共同配送」に取り組み、効率化や環境負荷低減に寄与する。特に照明電材、住宅建材の共同配送では業界をリードする存在で、多くの実績がある。運送だけでなく、顧客のニーズに応じて、製品の加工や配送後の設置まで一貫したサービスを提供している。

研究員

吉川 朝吉 さん

大阪府出身。IT業界35年以上の実績を活かして、DXプロデューサーおよびDX推進・AI活用コンサルタントとして活動。企業のDX推進を支援し、業務効率化と利益向上を実現するためのコンサルティングを提供。特にAIとデータの活用を通じて、変化に強い企業体質への変革をサポート。これまでに100社以上の企業を支援。主に従業員50名以下の多種多様な業種の中小企業を対象に、業務改善やデジタル活用を推進。

取り組みの成果
・
今後の取り組み

・関係者へのヒアリングや業務フローの作成を通じ、情報共有の不足や属人化といった課題を見える化した。
・社内情報共有ポータルサイトの導入により、業務の透明性を高め、従業員間の連携強化の土台を作ったほか、AIやデジタル技術を活用し、各種書類作成の省力化や一元化を進めた。
・社員から研究員に対して、業務改善に向けた相談が増加。提案内容も、他人任せではなく、自ら行動を起こすことを前提としたものが増え、企業風土の変化の兆しが現れた。

企業の評価・今後の関わり方

参加理由

・運送業界には依然として多くのアナログ業務が残されています。また、効率化に向け、作業の重複や属人化を解消したいという思いも持っていました。こうした課題を外部の専門家の知見を活用することで改善するきっかけになればと思い、本プログラムに参加しました。

評価（成果・社内変化など）

・吉川さんの支援により、AI等の新たな技術や視点を取り入れ、従来の仕事のやり方の見直すことができました。今後の業務改善につながる可能性を感じています。吉川さんの働きには満足しています。

・従業員自らが率先して業務改善に取り組む姿勢が芽生えたことが大きな成果だと感じています。自らが考える課題に関して、吉川さんに相談して解決を試みるなど、会社全体に新たな活力が生まれています。

・吉川さんが社員の良き相談役として機能したことで、社内には積極的に意見を出し合う雰囲気が生まれつつあります。今後は勉強会などを継続的に開催し、業務改善の機運を会社の風土として根付かせていきたいと考えています。

今後の関わり方

・吉川さんが常駐しなくても、従業員が主体的に改善活動を継続していけるよう、テーマごとにチームを編成し、吉川さんに進め方などを伝授してもらっています。それを基に、今後は個々のチームが主体となって活動を自走させ、会社の成長につなげていきたいと思っています。

研究員の評価・今後の展望

参加理由

・課題解決に向け、自社変革を目指す企業の支援に携わりたいと思い、友人から教えてもらった本プロジェクトにエントリーしました。これまで支援してきた企業よりも規模が大きく、物流会社という未知の業界で挑戦できることが、専門家としての成長につながると考えました。

評価（取り組み・生活）

・2月後半以降、社員から業務改善に関する相談が増加し、意識の高まりを実感しました。これに対し、改善案の予測される成果を経営者に効果的に伝え、適切な予算を獲得するための支援を行いました。

・大西運輸様は私がこれまで支援してきた企業に比べ従業員が多い上、組織体制は柔軟性が高く、適切な情報伝達に苦慮しました。大きな組織での情報共有法を検討する必要性を感じました。

・大学での講義はアカデミックで専門性を深める上で有益でしたが、企業の現場で活用することの難しさを感じました。一方で、総合演習は企業の課題解決策について具体的に議論できる貴重な機会でした。多角的な視点で客観的な意見を得られ、とても有意義でした。

今後の展望

・この半年間で、AI活用の可能性と限界について貴重な知見を得ることができ、今後の活動に役立つと考えています。本プログラムの終了後は地元の大阪に戻りますが、今後も大西運輸様が活動を継続されていく中で、必要に応じてサポートできればと思います。